

報告

市民向け啓蒙活動「おくすりカフェ」の第二回目の実施

鈴木 康夫^{1,2)}¹⁾中部大学生命健康科学部²⁾生命健康科学研究所ヘルスサイエンスヒルズ部門

1. はじめに

昨年度に引き続き、おくすりカフェを実行した。今回は、昨年度の結果を踏まえ、下記の点を新たに導入し改良を盛り込んだ。

1) 昨年度は会場からの質疑、それに対する応答が時間制限のため短かったので今回はそれを可能にするため開会時間を 30 分間延長し 2 時間とした。2) 本アクティビティをより広く薬剤師会関連にも周知させるため、第 52 回東海薬剤師学術大会(三重、四日市)に活動内容を発表した。3) 外部講師を招へいし、より幅広い「くすりと健康」についての活動を行った。4) 昨年度は年度末(2月~3月)に行ったため予算執行に支障がでた。今回はより早い時期(10月~12月初旬)に行う、などに改良を加えた。

2. 結果および考察

今回は、上記の改良点を考慮して、2019 年 10 月~12 月初旬にかけて計 4 回開催した。

(図 1) 市民参加のしやすい時間帯、場所を考慮して土曜日の午後 2 時~4 時、JR 鶴舞駅至近の中部大学名古屋キャンパス講義

室にて開催した。開催通知(図 1)は学内のホームページにも掲載した。「何を見て参加したか」というアンケートを参加者 7 人に実施したところ、ホームページを見ての参加者は、2 人であり、効果はあると感じた。

おくすり・カフェ

～薬剤師によるわかりやすいお薬と健康科学セミナー～

中部大学生命健康科学研究所
ヘルスサイエンスヒルズ部門市民セミナー

日時	10/26 (土)	11/16 (土)	11/30 (土)	12/7 (土)
14:00 ～ 14:30	おくすり手帳と 災害時の備え	後発医薬品について	セルフメディケーション規制 O T C	在宅医療とは
14:30 ～ 16:00	こんな時 こんなおくすり	インフルエンザ インフルエンザワクチン 世界流行	高血圧 高脂血症	糖尿病 アレルギー
16:00 ～ 16:30	質疑応対	質疑応対	質疑応対	質疑応対
会場	中部大学名古屋キャンパス 6F <610>	中部大学名古屋キャンパス 5F <510>	中部大学名古屋キャンパス 6F <610>	中部大学名古屋キャンパス 6F <610>

講師: 中部大学生命健康科学部
客員教授 薬学博士
鈴木 康夫

◆会場: 中部大学名古屋キャンパス 講義室
〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田5-14-22
TEL 052-251-6336

公共交通機関ご利用の場合
JR中央本線「鶴舞」駅名大病院口(北口)下車すぐ
地下鉄「鶴舞」駅下車北へ約100メートル

図 1 おくすりカフェのプログラムパンフレット。中部大学ホームページに掲載

知り合いから誘われた、が3名、その他が2名であった。遠方の豊橋からの継続参加者もあり、質疑に対して積極的な参加者が多かった。内容は、2019年10月26日(土)では、おくすり手帳と災害時の備え、こんな時こんなおくすり、質疑応答；11月16日(土)では、後発医薬品について、インフルエンザ、インフルエンザワクチン、世界流行；11月30日(土)では、セルフメディケーション税制、高血圧、高脂血症、質疑応答；12月7日(土)では、在宅医療とは、糖尿病、アレルギー、質疑応答というプログラムで行った。

今回は、質疑応答の時間を少なくとも30分間設け、開催時間を2時間とし、日ごろ気にかかっているお薬についての質問にお答えした。質問は多岐にわたり、非常に熱心であった。今回の参加者は、50才以上の方々であったが、わざわざ会場まで足を運んでくださることに敬意の念を強くしている。

今回、開催の季節がらインフルエンザの特別セミナーも盛り込んだ。特別講師として、デンカ生研株部長であり、本学部客員教授でもある酒井伸夫博士(薬学)にも無報酬で講演をいただき、大変好評であった。特にインフルエンザワクチンについて、その効果、接種の時期、製造法、ワクチン株の決め方など、一般市民にとって有益な情報が提供され、有意義であった(図2)。

今回、地域薬剤師会にも本活動を紹介できればという考えで、本活動を支援してくださる株アマノ医療本部、調剤部・薬剤師であり、名古屋西薬剤師会会長を歴任された伊藤公一氏のグループは、第52回東海薬剤師学術大会(三重、四日市)でのポスター発表を行った¹⁾。タイトルは【市民向け啓蒙活動「おくすりカフェ」の当薬局の協力的取り組みについて】である。伊藤氏のグループは、全てのおくすりカフェ開催時の最初の30分間で、お薬に関する様々なトピックス、例えば、おくすり手帳の活用、災害時の備え、在宅医療、後発医薬品、セルフメディケーションなど、身近なお薬に関する情報を提供下さり、大変好評であった(図2)。上記、学術大会でも、おくすりカフェのような啓蒙活動を小グループで継続することで、地域市民のセルフメディケーションの推進となることは間違いなく、薬局の現場で活躍する薬剤師のモチベーション向上にもなると確信したと述べている。

このように、本おくすりカフェは、一般市民への啓蒙、健康志向への導入のみならず、地域薬剤師の役割の向上にも今後さらに役立っていくことが期待される。

今後は、広報、メディアなどを通じてより広く一般市民へ通知し、この活動を広げていく。一般市民のおくすりと健康に対する関心は非常に高い。今後、医療関連機関とも連携し、お薬と健康に関する啓蒙活動

を広げていくことが望まれる。



図2 おくすりカフェ会場風景

4. 引用文献

1) 伊藤公一、武藤朋恵、可児千夏、前田理沙、梅村徹：市民向け啓蒙活動「おくすりカフェ」の当薬局の協力的取り組みについて。第52回東海薬剤師学術大会（三重、四日市）ポスター発表

Title: 2019 report of the Division of Health Science Hills, Institute of Life and Health Sciences, Chubu University. “Second action of educational activities on medical drugs, health and self-medication for citizens.”

Author(s): Yasuo Suzuki^{1,2}

Address(es): ¹) Department of Biomedical Sciences, College of Life and Health Sciences, and ²) Institute of Life and Health Sciences, Chubu University, 1200 Matsumoto-cho, Kasugai, Aichi 487-8501, Japan

Keywords: Division of Health Science Hills, self-medication, drug, health, citizens.